



## 平成16年度第2回研修会報告



日本貿易振興機構アジア経済研究所

前夜からの雨が上がり、秋の気配がいつそう深まった11月12日(金曜日)、日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館を会場にお借りして、本年度の第2回研修会を実施しました。

日程・内容は下記のとおりで、41名の参加を得て、図書館のあり方や情報サービス等について、今後の可能性も含めて、広い視野から考えるきっかけとなる有意義な会となりました。

### 講演会 午後2時00分～3時30分

- ・講師 竹内 比呂也 氏(千葉大学文学部助教授)
- ・テーマ 「図書館・情報サービス分野におけるユネスコの活動」

### 研究報告 午後3時45分～5時00分

- ・発表者 高木 敏朗 氏  
(日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館研究主幹)
- ・テーマ 「オハイオ州の電子図書館事情」

### 【講師紹介】 竹内 比呂也 氏(千葉大学文学部日本文化学科助教授)

・1961年 福井県生まれ

〔研究領域〕図書館情報学

東京大学附属図書館(総合図書館) ユネスコアジア太平洋地域中央事務所(バンコク) 静岡県立大学短期大学部(およびこれを基礎とする静岡文化芸術大学) 助教授を経て現職。

図書館現場での勤務経験もあり、「図書館情報学は実践の場を持つ研究領域であることを常に意識して研究を進めている」とのこと。



研修会当日講演中の竹内氏

## 第 2 回 研 修 会 講 演 会 に 参 加 し て

日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館

狩 野 修 二

平成 1 6 年度第 2 回研修会の講演は、日本貿易振興機構アジア経済研究所を会場として、千葉大学の竹内比呂也先生による講演が行われた。

講演のテーマは、「図書館・情報サービス分野におけるユネスコの活動」。ユネスコと言えば、「世界遺産」や、「識字活動」などが思い浮かぶが、そもそもユネスコとはいかなる組織なのか、そしてどのような活動をしているのかなどについて、主に図書館活動に焦点をあてながらの講演であった。

ユネスコはその名 ( United Nations Educational Scientific and Cultural Organization ) からわかるように、教育・科学・文化の 3 つを主要な活動分野としている。そして、その目的は、これらの分野を通じて、諸国民の間の協力を促進し、平和・安全に貢献すること(ユネスコ憲章より抜粋)とのことである。

また、ユネスコの任務の中には、図書の保存・保護のための国際条約の勧告、各国で作成された印刷物・刊行物利用のための国際協力の方法の発案などが含まれており、これらのことを知るだけでも、ユネスコが「世界遺産」や「識字活動」だけでなく、図書館活動にも深く関わっていることがわかった。

現在、ユネスコにおける図書館活動は、「コミュニケーション・情報局」という部局によって行われているとのことであるが、それ以外にも、教育分野では、識字率や教育の向上のための図書館を利用したり、文化分野では、文学作品の翻訳事業で翻訳書誌を作成したり、また自然科学分野ではドキュメンテーションの事業などが行われるなど、図書館的な活動があらゆる分野に関わっていることが感じられた。

数あるユネスコの図書館活動の中で特に印象に残ったものは、資料の保存に関する活動である。図書館や文書館などにある貴重な資料を、「世界遺産」のように登録制で保護・振興していく「世界の記憶」プログラムやデジタル情報の保存を目的とした「デジタル遺産保存憲章」の制定などがそれである。講演のまとめの中でも、竹内先生がこの活動のことに触れ、貸出冊数が中心となっている最近の傾向に対して、知的遺産である資料の保存と継承がいかに重要であるかということについて述べられていた。資料の保存とは非常に地味な活動であるが、それをなくして図書館活動はありえない。非常に身近な問題としてとらえることができた。



研修会風景

## 研究報告「オハイオ州の電子図書館事情」を聞いて

千葉大学附属図書館

松 木 尚 巳



アジア経済研究所図書館 高木氏

日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館 高木 敏朗氏の研究報告「オハイオ州の電子図書館事情」はオハイオ州の公共、大学図書館双方の現状を知るよい機会となりました。

まず、州の概要をご説明いただいたのですが、もともと OCLC や CAS といった情報サービスの拠点が存在し、情報サービスを提供する基盤と伝統があるという環境に加えて、州の住民に図書館債権の発行などを通して「自分たちの図書館」という意識がある、という点が印象に残りました。

オハイオ州の公共図書館の中には HAPLR のランキングで常に上位にランクされる館がいくつかあり、高木氏によると全体的に公共図書館の「質が高い」ということです。電子的なサービスとしては OPLIN を通して商業 DB や電子ブックなどを提供しています。そのためのアクセス拠点は 700 箇所と非常に多く便利ですが、電子媒体サービスの充実は反面、費用がかかるはずで

その点に関しては州政府が資金面で手厚く援助している、というデータをご紹介いただきましたが、州の図書館は恵まれた環境にあることを強く感じました。

大学図書館の事情として OhioLINK についてご説明いただきました。世界でも有名なコンソーシアムで電子ジャーナルやデータベース、E-Book などの電子媒体の提供は当然充実していますが、大学の外でも同じように利用が可能であることは重要です。また、紙媒体である図書について重複を避けた選書を行っており、同タイトルのコンソーシアム内における所蔵は 2 館までで 70% というデータを示されました。ILL の貸借サービスが整っており、数日のうちに資料が図書館やオフィスに配達されることで資料を所蔵していない図書館の不便を解決しているとのこと。DDS については PDF 変換した記事をサーバにアップロードし、依頼者は PC 上で記事をダウンロードできるので、電子的にも物理的にも充実した環境が整えられているという印象でした。

OhioLINK では新サービスも幾つかご紹介いただきました。PLoS の雑誌に投稿する費用を半額援助するサービス、また、機関リポジトリといった大学の研究成果の保存や公開に関するサービスでしたが、機関リポジトリでは雑誌業者との交渉で幾分おされ気味のようであるとのこと。この辺りについては興味深いのでまたご紹介いただく機会があれば、と思います。

短い時間でしたが内容豊富で参考になりました。ありがとうございました。



## (1) 敬愛大学メディアセンター

敬愛大学メディアセンターです。平成 14 年 4 月より事務組織再編成により「図書館」から「メディアセンター」に名称変更いたしました。図書館をベースに情報関連業務を担当する部署となり、ネットワーク管理者がいるとはいえ、今までにない業務が入ってきたことでてんてこ舞いの毎日でした。今、スタッフ一同「図書館からメディアセンターへ」を目指し、日夜奮闘している次第です。

では、メディアセンターになってどこが変わったのか、どんなことをしているのかを少しご紹介いたします。資料の収集・整理・保存・利用者へのサービスについては従来の図書館業務であり何ら変わる点はありません。

また、学外者へも開放しておりますのでどうぞご利用下さい。この場で 1 点付け加えさせていただきますが、千葉市図書館情報ネットワーク協議会の目的の一つである「資料の共有と利用」を考えると、「資料は利用されてこそ生きるもの」であり、千葉市の多くの方々にこの協議会加盟館を利用することができることを知っていただきたいと思います。ただし、利用者へのサービスは各加盟館によって異なりますのでご確認下さい。

本メディアセンターは図書館関連業務の他に学内ネットワーク、ホームページの管理運営等々が新たに加わりました。

こうした中、メディアセンター主催で公開講座を開講しています。名称は「情報活用講座」です。パソコンが家庭に導入され、インターネットの普及率を見張るものがあります。若者だけではなく、多くの方々が手軽にパソコンの操作ができ、生活の一部としてパソコンを使えるスキルを身につけることを目的としています。

今年度はパソコンの基本操作・Word 入門・インターネットエクスプローラーの活用・情報検索・Excel 入門・データベース作成・初めてのデジカメ・画像の加工編集を 9 月に実施いたしました。「情報活用講座」は数年来多くの方々が受講され好評を得ております。更にスキルアップしたい方のために資格取得を目的に「マイクロソフト オフィス スペシャリスト受験対策講座」「P 検 3 級 (PCUA 実施) 受験対策講座」も開いております。今年度は 12 月で全て終了ですが、開催案内はホームページ等でご案内しています。

今やデジタル化の波は一気に押し寄せ、図書館の蔵書検索はインターネットを使い家にいながら検索できるようになり、デジタル資料やデータベースも図書館に備えられています。パソコンが使えたら大変便利な世の中です。「パソコンを気軽に使えるように」そんな思いで講座を開講しています。デジタル社会が全てではありませんが、アナログとデジタルを上手に使い図書館を活用していただきたいと思います。

## (2) 淑徳大学附属図書館千葉図書館

『日々是勉強』

淑徳大学附属図書館

大 滝 伸 一

8月1日付で、学事部から図書館に異動になりました。図書館職員として早4ヶ月が過ぎようとしています。

私は、父の影響で幼少よりクラシック音楽を聴いてきました。その世界でEMIと共にクラシックレーベルの世界一のシェアを誇るドイツ・グラモフォンというレコード会社があります。その中に音楽史の分野を受け持つアルヒーフというレーベルがあります。これは特にLP時代は曲目・作曲者・演奏者・歌詞・歌詞対訳は勿論、演奏時間・ピッチ・録音日時・場所・使用楽譜の出典・使用楽器名またその製作年代(コピーの場合あり)・その楽器の製作者、時代背景まで解説され、ドイツ語・英語訳・フランス語訳とあり大変立派なものです。このアルヒーフ(ARCHIV)の英語読みが、最近よく使われるアーカイブズ(ARCHIVES)です。

着任早カルーティンの作業として、貸出・返却のみならず学生へのレファレンス対応があり、慣れるのに大変です。利用者にとってカウンターにいる職員は、「図書館の資料を熟知している人」です。ベテラン・新人の違いはわかりません。私は、利用者の質問にどのように応えたか、どの資料を提示したか、またその関連資料を探し、日々の質問などを書きとめ、自分なりにレファレンスツールを作っています。改めて業務の専門性を感じます。勉強しなくちゃ。

インターネット全盛で、利用者は質問するよりもネット検索に走りがちですが、印刷された資料の有効利用性・使い方など、指導できるように努力していきたいと思います。

### お知らせ

#### 第3回研修会について

第3回研修会は、下記のとおり、施設見学を予定しています。

【期 日】2005年2月4日(金)

13:00~17:00

【見 学 先】富里市立図書館

(千葉県富里市七栄653-1)

【見どころ】「次世代型IC図書館システム」

JR千葉駅北口出発・帰着の大型貸切バスでの移動を予定しています。1月早々に、ご案内状で参加者の確認をさせていただきます。どうぞふるってご参加ください。



#### 本協議会のホームページが復活しました

アドレス ; <http://www.ll.chiba-u.ac.jp/~clinet/>

#### 各館の行事予定 (2005年1月~2005年3月末; 17未掲載分)

月 日	主 催 館	行 事 名	概 要	場 所 ・ 時 間 等
1月6日	千葉市中央図書館	子どもかるたあそび	定例のおはなし会の中で、図書館にある絵本のかるたあそび	3、4歳:14:30~ 5、6歳:14:30~ 小学生:15:00~

お問い合わせは、実施館へ。

ネットワーク通信 No. 18

2004年12月24日

発行:千葉市図書館情報ネットワーク協議会

事務局:千葉市中央図書館内

〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7

Tel 043-287-3980 Fax 043-287-4074